

のですが、下手で」

「下手とか、上手とか、そんなこといりませんよ。幼い子へのおはなしは、ごくらくくと、技巧なんか使はないのが却つてよろしいのですから」

「でも、幼稚園では皆を集めて、先生はお立ちになつて」

「いやですよ奥さん。そんな公會堂のおはなし大會のやうなこと」

「さうですか」

「藤棚の下でも、お庭の隅でも、二人でも三人でも。私達も椅子にらくに腰をかけて、お宅の椽側か、お居間の火鉢のそばかなんかのやうに」

「それで子どもは謹聴して」

「ハ、ハ、ハ。謹聴なんて。お説教ぢやありませんし。子どもらくらくいる／＼のことを申しますよ。なかには、途中から話をとつて仕舞ふこともある位で」

「そうすると、おはなしよりも話しあひですね」

「そうですね。その方が、ほんのお話ぢやありませんか」

「それでよろしいのでせうか」

「よろしいどころか、そうして、子どもと語る譯なんです」

「どこかで出てゐる童話の雑誌の名のやうですね」

「あれは、私の發案でつけた名なんです」

「聴かせる許りでなく、言はせもし、聴いてやりもするのですね」

「さうそ。その通り。しかも、その言はせかたが中々むづがしいのです。聴いてやることこそ、尙更むづがしいのです」

子どもと同じ心持になつてね」

「先生がそれをして下さるのでね。私もでは面倒くさくて、つい、うるさくなつて」

「それでもないでせう。可愛い、お子さんのなさるお話ですもの、お母さまこそ、にこ／＼して聴いてお上げになれるのでせう」

「それは、まあ、そうですねえ」

「それを、大勢のお子さんにして上げるのが、幼稚園なんです。一つに集めて、こつちの言ふ話ばかり聴かせてゐるのでありますね」

「有り難いことですね」

「なあに、だから、私達も楽しいのです」

お話のたね本

お話はしてやりたし、知つてるお話は少ない。これがお母さま方の頭痛のたねです。幸この頃は、その材料を集めたいい本が澤山出てゐますが、多くは小學校以上の子どもへの爲のもので、幼児向きのものは、別にさがさなければなりません。次の二つは、本會の編纂で、少々自家廣告のやうですが、専ら幼稚園の幼児のために適當なお話ばかり集めてあるところに、安心してお使いになれる便利があります。

○ 幼児に聴かせるお話

定価金貳圓八拾錢。郵税拾四錢

○ 幼児の樂しむお話

定価金貳圓八拾錢。郵税拾四錢

兩方とも、日本幼稚園協會編で、東京日本橋區大傳馬町内田老鶴園發行です。